

平成26年度第2回奈良県学校・地域パートナーシップ事業研修会の実施報告

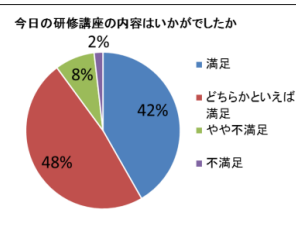
- 1 日時 【北部会場】平成26年8月30日(土) 14:00~16:00
 【中部会場】平成26年9月 7日(日) 9:30~11:30
 【南部会場】平成26年9月 7日(日) 14:00~16:00
- 2 会場 【北部会場】奈良市生涯学習センター
 【中部会場】奈良県社会福祉総合センター
 【南部会場】下市観光文化センター
- 3 参加者 県内公立小・中学校教職員、学校関係者、市町村教育委員会事務局関係職員、学校・地域パートナーシップ事業関係者等(地域コーディネーター、ボランティア、PTA関係者等)
 【北部会場】59名 【中部会場】70名 【南部会場】44名 【合計】173名
- 4 内容 14:00~14:05 (9:30~ 9:35) 開会
 14:05~14:25 (9:35~ 9:55) セミナー「地域と共にある学校づくり」
 人権・地域教育課地域教育係
 14:30~16:00 (10:00~11:30) 講演 「地域で子どもを支える大人の役割」
 ~人と上手に関わるのが苦手な子どもへの関わりから~
 天理医療大学准教授 尾ノ井 美由紀 先生



5 講演概要

発達障害とは、「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳の障害であってその症状は通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの」と発達障害者支援法で定義されている。また、自閉症は、境界線なく連続してつながっていることから、自閉症スペクトラム(連続体)といわれる。全ての人たちに、多少なりともその傾向があると考えられる。発達障害のある人たちは、相手の気持ちが読みづらかったり、自分の感情を表現しにくかったりするため、感情がない、冷たいという間違ったイメージを持たれてしまう事が多い。感情や思いは表に現れにくく、見えにくいだけである。そのため、発達障害のある人たちにとっては、「周囲の理解」が最も大切な環境となってくる。

発達障害の有無にかかわらず、子どもと関わる時の視点として以下のような点を示された。



人と関わる事が苦手な子どもの関わり方(尾ノ井准教授講義より)

1. わかりやすく、短く具体的に話しかける。
2. 説教・説得よりも、思いを聞く。
3. トラブルの時など、どうすべきか具体的に教える。
4. 活動の見通しを立てる。
5. 難しい学習は、スモールステップで教える。
6. 問題行動・パニックには、必ず原因・理由がある。
7. 子どもがパニックを起こした時には、静かな場所に移動したり、子どもが落ち着くグッズを用意したりする。また、事前に本人のことをよく理解しておくことで、パニックにならないように対応もできる。
8. 本人なりにがんばっていることに気づき褒める。



6 グループワーク

発達障害のある子どもたちがパニックを起こしている場面を想定して、支援の方法について話し合った。「先生がその場にいるので、ボランティアとして、どこまで関わっていったらいいのか悩む。」「周りの子どもたちが、発達障害のある子どもたちのことを一番よく知っていると思うので、子どもたちがその子をサポートしていくような環境を作ることが大切である。」等の意見が出された。



7 感想

- ◇ 話を聞かせていただいて、基礎的な知識を得ることができてよかったです。障害のある子どもたちと接するときに、少しでも知識があることで、余裕を持って話すことができるのかなと思います。
- ◇ 「地域と共にある学校づくり」を始めたばかりの地域ですが、知れば知るほど、子どもたちにとって重要なことであると分かりました。PTAの会員ですが、学校に持ち帰り広めます。
- ◇ 自閉症の子どもたちと実際に接した経験があります。活動時の悩みの一つとなっていたので、今後の子どもとの関わりの中で活用していきたいです。